

2025 年 6 月 12 日

環境優良商品の普及による“CO2 削減貢献量※1”を数値化！
「GBP App」を実装し、参加企業の脱炭素への取り組みをサポート
2024 年度「グリーンボールプロジェクト」実績報告

ものづくり商社のリーディングカンパニーである株式会社山善（本社：大阪市西区、代表取締役社長：岸田貢司）は、2008 年度より環境関連ビジネス「グリーンボールプロジェクト」(<https://www.greenball.jp/>)を推進しています。2008 年度から 2024 年度までの 17 年間で延べ 13,229 社が参加し、CO2 削減貢献量※1 は累計で 611,098t - CO2 となりました。



環境優良商品の普及を促進することで、持続可能な社会の実現を目指し、地球環境とエネルギーの未来に貢献することを目的とする「グリーンボールプロジェクト」。当プロジェクトでは、当社が取り扱う環境優良商品が、当プロジェクトの参加企業（販売店）を通じて工場や一般家庭へ販売・設置されることで、生じていると考えられる CO2 削減貢献量※1 を独自の「GBP プロトコル」として、算定・開示しています。CO2 削減貢献量※1 は、企業の製品・設備やサービスのさらなる開発を促すものとして、「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」が新たな指標として関心を寄せており、日本、海外企業も開示に動くなど注目されています。

また、2022 年 7 月より、当社における CO2 排出量を拠点・部署ごとに把握するため、株式会社ゼロボード（本社：東京都港区、代表取締役：渡慶次 道隆）が提供する SaaS 型の CO2 算定アプリケーションを一部カスタマイズした「GBP App」（ジービーピー・アプリ）を導入しました。「GBP App」は、“GHG プロトコル”に基づく総排出量と、“GBP プロトコル”に基づく削減貢献量※1 の見える化を可能にした、“W プロトコル”導入済みのアプリケーションです。これをグリーンボールプロジェクトの参加企業である販売店にサービスとして提供しているほか、2024 年より当社の仕入先であるメーカーに販売し、当社の仕入先、販売先、双方の“見える化”を支援しています。

2025 年 3 月に「サステナビリティ基準委員会(SSBJ)」が策定した、日本でのサステナビリティ情報開示の新たな基準が最終化され、日本の大企業は Scope3※2 の情報収集を強化する流れにあり、中小企業であってもサプライヤーとして GHG 排出量の開示が要求されることになります。当社は、今後もグリーンボールプロジェクトの活動並びに、「GBP App」を活用した CO2 排出量の算定・可視化を推進しながら、サプライチェーン全体の脱炭素に寄与してまいります。

<グリーンボールプロジェクトの成果>

	2024 年度	累計（2008 年度～2024 年度）
CO2 削減貢献量	40,231 t - CO2	611,098t - CO2
参加企業数	680 社	13,229 社

<「GBP App」の特長>

- ✓ 当社および参加企業の CO2 排出量を算出・見える化
- ✓ 対象商品の販売量に応じた CO2 削減貢献量を算出・見える化
- ✓ GHG プロトコルに準じたカテゴリ排出量の報告、開示が可能
- ✓ 年・月次での増減比較ができ、実質カーボンニュートラルに向けた中長期の進捗管理が可能



<「GBP App」の新機能>

① サプライヤーアンケート機能

データ収集を効率化するため、アンケート作成や進捗確認などを行います。組織ベース算定と製品ベース算定(CFP)の排出量を収集し、Scope3 Category1 に取り込むことや、CFP 算定時の原単位として使用可能。

② ホットスポット分析

ホットスポット分析が縦並びで表示され、排出量が多い活動の詳細が見える化します。ここでの分析を行うことで、排出量削減の計画案作成の参考にできます。

<公益財団法人日本自然保護協会への活動支援>

グリーンボールプロジェクトは、「公益財団法人日本自然保護協会」を支援しています。同協会は人と自然が共に生き、赤ちゃんからお年寄りまで美しく豊かな自然に囲まれ、笑顔で生活できる社会を目指し活動しています。



写真提供：公益財団法人日本自然保護協会

<GX リーグに参画しています>

当社は、経済産業省が設立した「GX（グリーントランスフォーメーション）リーグ」に参画しています。



※1：ベースライン比較法に基づくプログラム型削減。

※2：事業者による GHG 排出量の算定・報告対象範囲の区分。

(Scope1:自社の事業活動における直接的な GHG 排出 Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用により発生する間接的な GHG 排出 Scope3:上記以外の事業活動に関わるサプライチェーンの GHG 排出)

今後も当社は、パーパスである「ともに、未来を切拓く」のもと、世界のものづくりと豊かなくらしをリードしてまいります。

※ ニュースリリースの内容は発表時のものです。閲覧いただいている時点では内容が異なっている場合がありますのでご了承下さい。

(お問合せ窓口) 株式会社 山善 広報・IR室 担当 米田
電話 06-6534-3095
E-mail : info07@yamazen.co.jp